

無責任 六十一号

曇り空のくらい真冬の自販機にうられる乳児のケースを見てる

浮島

無責任 六十一号
責任者 清水らくは
副責任者 浮島
発行日 二〇一七年三月一日
発行 無責任 zone
書体 DF 隷書体
<http://border.poem.seesaa.net/>

まいど の 日々

清水らくは

あの一か月
声をかけてくれたのは
自販機だけだった

最初はコーヒーを買った時に
声をかけてくれた
まいど！
びっくりしてなぜか
空を見上げた

何日か経って
夜中誰もいないのに
声を出していた
おはよう！ 今日元気だな！
お前も壊れているのか

こちらからも
声を出してみた
まいど！
声が返ってくる
まいど！
ああ
生きていないものは
ひたすらに優しい

いくつかのつながりを断ち
心の温度を取り戻した頃には
自販機は沈黙していた
正しくなってしまうと
とてもつまらないことがある
ただ、自動的な二人

